

インフラ基盤の高齢社会工学分科会 平成 31 年度 活動報告

1.活動結果

① インフラ基盤の高齢社会工学の定義と領域の検討

既往の高齢社会工学の定義、領域を研究し、インフラ基盤分野への社会的ニーズを検討するとともに、そのニーズの社会課題を明らかにした。

具体的には東京大学高齢社会総合研究機構の定義を確認し、「科学技術イノベーション総合戦略 2015」及び「第 4 次社会資本整備重点計画(2015～2020)」におけるインフラ基盤・インフラシステムのテーマ領域を整理して、東京大学高齢社会総合研究機構高齢社会工学の定義を目標、手段、対象などと共に確認した。

②東京大学高齢社会総合研究機構との連携方策の検討

同機構の理念、沿革、活動、体制などを調査し、建築、都市計画分野の同機構関係者にヒアリングすることにより、インフラ基盤分野での連携方策を検討した。

具体的には同機構のウェブサイト、パンフレットなどでこれを調査の後、同副機構長の牧野 篤教授（東京大学大学院教育学研究科）に機構の事情を聞き、下記の催事で講演いただいた。また同機構の前田展弘客員研究員（ニッセイ基礎研究所）に街づくりに関連する取り組みを聞き、同様に講演いただいた。これらを通じて下記の人生 100 年インパクト・ハブの場で連携活動を開始した。

なお、土木学会全国大会 in 四国に参加し、土木界における高齢社会対応の活動を調査した。

1) 人生 100 年インパクト・ハブ

日本経済新聞社「日経新シニアライフデザイン研究会」が、牧野篤教授と組み、30 超の企業、自治体を集め事業の探索をしている。SLIM は 9 月よりこれに参加し、「自動運転本格化で変わる生活と社会インフラ」分科会を運営して、2 か年の予定で政策提言並びにモデル事業の探索を始めた。

2) その他の連携活動

高齢社会における自動運転技術の活用に関する情報収集を目的として、すでに活動中の団体、組織に入会した。スマートモビリティチャレンジ推進協議会は具体的なニーズやソリューションに関する情報共有とビジネス環境整備を目標としており、これまで SLIM は地域シンポジウムに参加した。また MONET コンソーシアムでは分野を超えた企業同士のサービスマッチングを促進しオープンプラットフォームの構築をめざしている。

3) 関連する施策の動向調査

経産省が進める「スマートモビリティチャレンジ パイロット地域分析事業」、国交省が進める「スマートモビリティチャレンジ 先行モデル事業」それぞれの対象事業を調査した。また、地方再生事業のうち高齢社会における街づくり、しくみづくりに関する施策を

調査した。更に国交省道路局および都市局の^{自動}指導運転に対応した検討会などの動向を調査した。

③ 日本版 CCRC 構想の推進と実現に向けた活動

わが国で同構想を推進する研究会活動と連携し、南房総地域での実現を模索した。具体的には、前記のとおり土木学会全国大会 in 四国に参加し、土木界における高齢社会対応の活動を調査した。また名古屋大学の創立記念イベントにおいて自動運転にかかるシンポジウムを聴講し、CCRC 構想へのこの最新技術の導入可能性を探索した。更に南房総市現地を訪問し、同市在住の元千葉県職員と意見交換、同地域の課題を聞き今後の対応を検討した。

④ 催事の企画と運営

土木学会インフラメンテナンス委員会が主催したシンポジウム「インフラメンテナンスが拓く我が国の未来」を共同で企画し後援した。このシンポジウムでは、近い将来に到来する人口減少・高齢化社会とスマート社会を取り上げ、これらの社会においても、我々が安全で豊かな生活を享受するためのインフラのあり方を考えるとともに、喫緊の課題であるインフラメンテナンスをどのように進めていけばいいのかを共に考えた。